

## 第1専門部会(区民生活・環境まちづくり分野)

# 施策評価表 および 検討結果

施策名	1 1 1	地域活動を支援する
	1 2 3	消費者の自立を支援する
	1 3 1	犯罪等に対する態勢を強化する
	1 4 2	人権の尊重と男女共同参画を進める
	1 5 1	便利で効率的な窓口サービスを行う
	4 1 2	未来を築くみどりをつくる
	4 2 1	足元からの行動を広げる
	4 3 1	ごみの発生を抑制する
	4 4 1	区民・事業者とともにまちづくりを進める
	4 5 4	利用しやすい都市をつくる
	4 6 1	公共交通を充実する
	4 7 2	良質な住まいづくりを支援する

施策評価検討結果 一覧

第1専門部会協議結果 (5/1現在)

(1) 施策を達成する手段(事務事業)について														
		111	123	131	142	151	412	421	431	441	454	461	472	
施策を達成する手段として適当か		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
(2) 成果指標について														
		111	123	131	142	151	412	421	431	441	454	461	472	
指標1	指標の性質	ア)代表性	△	△	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○
		イ)わかりやすさ	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウ)普遍性	○	△	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○
		エ)その他	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		オ)総合	○	△	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○
	目標の妥当性		△	△	○	○	△	○	△	△	△	△	○	△
指標2	指標の性質	ア)代表性	△	△	○	○	△	△	○	○	△	○	○	△
		イ)わかりやすさ	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウ)普遍性	○	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△
		エ)その他	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		オ)総合	○	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△
	目標の妥当性		○	△	○	○	△	△	○	△	△	△	△	△
指標3	指標の性質	ア)代表性		△	○	○			○	△	○	○		
		イ)わかりやすさ		○	○	○			○	○	○	○		
		ウ)普遍性		△	○	○			○	△	○	○		
		エ)その他		/	/	/			/	/	/	/		
		オ)総合		△	○	○			○	△	○	○		
	目標の妥当性			△	△	△			△	△	○	△		
全体	指標の代表性		○	△	○	△	△	△	○	△	△	○	△	△
	目標の達成度		△	△	○	△	○	△	△	○	○	△	○	△
(4) 評価について														
		111	123	131	142	151	412	421	431	441	454	461	472	
成果	ア)評価区分の妥当性		○	○	△	△	○	△	○	○	○	○	△	
	イ)判断理由の妥当性		△	△	△	△	△	△	○	△	○	○	△	○
	ウ)その他		※	※	/	/	△	※	/	/	※	/	/	/
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性		△	△	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△
	イ)判断理由の妥当性		△	△	△	○	△	○	△	○	△	△	△	△
	ウ)その他		※	/	/	/	※	/	/	※	/	/	/	/
要因分析	内部要因		△	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	○
	外部要因		△	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
総合評価	ア)評価区分の妥当性		○	△	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△
	イ)判断理由の妥当性		△	△	○	△	△	○	△	○	○	△	○	△
	ウ)その他		/	※	/	※	/	/	/	/	/	/	/	/
(5) 改革・改善案について														
		111	123	131	142	151	412	421	431	441	454	461	472	
ア)評価結果との関連性		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
イ)内容の具体性		○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	
ウ)その他		/	/	/	※	※	/	※	※	※	/	/	/	

注:『/』は該当なし、『※』はコメント有り

施策名		111 地域活動を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適切か	△	施策を構成する手段が町会・自治会とNPOに限定されているが、地域の活動に関わるものとしては、学区単位の地縁的色彩の強い父母のグループのほか区域全体に及ぶ団体などのボランティアもある。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		地域活動に参加している区民の割合	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	加入世帯率は分りやすい指標ではあるが、各種のボランティア団体の活動に参加している人たちについても評価できるようにすべき。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	目標値がほとんど変化しない指標というのは適切ではない。	
	指標②		NPOと行政の協働事業数	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	NPOと行政の連携については、練馬区NPOとの協働指針に示されている「協働の形態」(参画、事業協力、共催など)を取り上げるとNPOとの協働の全体像が把握できると考える。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	○			
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	○	指標①及び②は、地域活動を支える基盤として重要な指標であり、一定の代表性を確保している。ボランティア団体に関する指標を追加すれば、代表性は高まると考える。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	△	町会・自治会への世帯加入率は平成16年度を下回っていること、目標値を1ポイント下回っていることからみて達成しているとはいえない。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	○	町会・自治会へ加入率低下について総人口の増加を理由にあげているが、説得力があるとは思われない。 町会・自治会への加入率と区の事業との関係が分らない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	※	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△	成果が上がっていないのに経費が適切とは判断できない。 「近年40以上の協働事業」の実施を判断根拠としているが、判断理由の記載や指標からはみることができないので、説得力に欠ける。 事業概要の説明に止まっている。事業費が増加している中で、職員数が減(0.3人)にした理由が分らない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	※	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	町会・自治会の加入率は、区民の意識改革が進めば、上がるように受け止められるが、果たしてそうか。町会・自治会への加入を呼びかけるとともに、活動を見せ、分るようにすることが必要ではないのか。 ②の分析は、現状説明であって評価についての外部要因分析とはいえない。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	①の記述については、具体性に欠ける。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	／	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○		
イ)内容の具体性	○		
ウ)その他	／		
(6)その他			
その他		今後、高齢化社会が進むにつれ、地域活動の重要性が再確認されるとともに、町会・自治会の役割は高まると見られる。高齢化社会を迎えるに当たり、町会・自治会に求められている役割を明らかにし、地域活動を支援するという施策の目的を達成するよう事務事業を見直すこと。	

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		123 消費者の自立を支援する。		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	ただし、国、都、その他の団体が行う消費者支援活動との連携・調整が円滑に行われるという条件付き。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		消費者講座の募集定員に占める参加者数の割合	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア)代表性	△	募集定員については、区の行政レベル(担当者レベル)で決めることができ、それによって達成度も変わってくるので、このような指標については問題がある。参加者数でいいのではないか。
		イ)わかりやすさ	△	
		ウ)普遍性	△	
		エ)その他	／	
		オ)総合	△	
	目標の妥当性	△	企画内容が良くても参加率が予想を下回る場合もある。	
	指標②		消費生活相談で受けた相談のうち、クーリング・オフによって解決した件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア)代表性	△	クーリングオフによって解決した件数が下がったことと、消費者相談の成功との相関はそれほど高くないと思われる。
		イ)わかりやすさ	△	
		ウ)普遍性	△	
		エ)その他	／	
オ)総合		△		
目標の妥当性	△	消費者相談の目標は、相談に来た人の満足度をみることではないか。		
指標③		出張講座の回数		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア)代表性	△	出前講座の回数は、活動指標であって、施策レベルの評価指標としては適切ではない。	
	イ)わかりやすさ	○		
	ウ)普遍性	△		
	エ)その他	／		
	オ)総合	△		
目標の妥当性	△	同上		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		△	消費者の満足度を見るべき。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		△	クーリング・オフ以外は未達成。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	○	指標設定が適切でないので、理由の妥当性は、説得力が不足しているのではないかとと思われる。 消費者の満足度から判断するべきではないか。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	※	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△	現在提示されている資料では判断できない。 ここでは、成果と経費について比較検討することであるので、総経費の節減がなされたから、成果が「B」であっても、評価は「A」ということにはならない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	／	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	②については、客観的にみてその内容を是とするには至らない。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	△	②については、本当にそのように見ることができるのか。 妥当性の判断はできない。 指標の設定に問題があるのであって、支援事業そのものの問題ではないことに留意しなければならない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	※	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○		
イ)内容の具体性	○		
ウ)その他	／		
(6)その他			
その他		国、都、その他の団体が行う消費者支援事業との連携を図り、消費者ニーズを把握し、区として実施しなければならない事業を実施することが求められる。	

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		131 犯罪等に対する態勢を強化する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	練馬区の暮らしやすさについて「防犯・防火・防災」に関する区民の満足度		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	○	ただし、近隣区の実績値と目標値に関する資料があれば、目標の達成度の判断はより説得力を持つものと考えられる。	
	指標②	区民1万人あたりの犯罪発生件数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	ただし、近隣区の実績値と目標値に関する資料があれば、目標の達成度の判断はより説得力を持つものと考えられる。		
指標③	区民1万人あたりの火災発生件数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	△	・18年度で目標を達成しているのので、その後の目標値は、より小さい数値にすべき。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価		
		○	ただし、現行の指標①、②、③は、取組の成果が現れるのに長期間を要し、また様々な要因が影響する「長期アウトカム」指標になっている。将来的には、区の取組の成果が反映しやすい指標(中間アウトカム指標)を検討すること。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○		

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	△ 犯罪発生件数は未達成であること、区民の満足度も目標は達成しているものの50%を切っていること。	
	イ)判断理由の妥当性	△ 同上の理由	
	ウ)その他	/	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	△ ①で、「犯罪の抑止防止に関して一定の成果が上がっている一方、総経費は抑制されている」としているが、総経費の対前年度比は増加しており、「抑制されている」とは言い切れない。	
	ウ)その他	/	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△ 防犯防火に対する区民の意識が高揚しているとする根拠がない。	
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○ ただし、満足度については、前年度との比較に加えて長期的な傾向を判断すべき。	
	ウ)その他	/	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○		
	イ)内容の具体性	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅に火災警報器の普及促進を図ることが火災による死者の減少につながる。区としても積極的に推進すべき。</li> <li>区の防犯・防火・防災への取組は、区民から評価されていると思われる。</li> </ul>
	ウ)その他	/	
(6)その他			
その他		補助事業について毎年、区が負担をしていること、区が行っている事業との関連もあることから、定期的なチェック、検討がなされているかも「成果と経費の比較」の判断の中に含めたい。	

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし



施策名		142 人権の尊重と男女共同参画を進める		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として 適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	区民の人権に対する意識の高さ		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	○	ただし、簡易な調査も併用し、毎年度施策の効果が見えるようにすべき。	
	指標②	性別によって社会での役割が決定されることを良くないと考える区民の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	○		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	○	ただし、簡易な調査も併用し、毎年度施策の効果が見えるようにすべき。		
指標③	職員の人権意識の高さ			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○	指標自体に問題はないが、「把握方法」が「研修を受講した職員へのアンケート」となっており、職員全体の意識を示したものではない。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	△	目標が100%になるのは22年度となっているが、遅すぎる。20年度に100%とすべき。		
指標全体の評価	指標の代表性	△	3つの指標は、それぞれ代表性がある。しかし、5年に1度の調査であったり、研修受講者でもって職員全体の意識を判断しようとしており、問題がある。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	△	18年度について達成率が分るのは指標③のみで、達成しているとは判断できない。	

〔評価〕 ○: 良い (重要) △: やや疑問 (あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	△ ①についてはデータがなく、③については参加者は減少している(事務事業No.10)。
	イ)判断理由の妥当性	△ 同上
	ウ)その他	/
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○
	イ)判断理由の妥当性	○ ただし、貸出・レファレンス1件当たりの経費は、16、17、18年度では、毎年度増加していることに言及すべき。
	ウ)その他	/
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ①で述べられているような新たな課題が出てきているので、課題の発見・効果的な対応等、常に努力するようにならない。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○
	イ)判断理由の妥当性	△ 区民向けの啓発事業に参加する人はもともと意識が高い人。意識の薄い人の啓発をしてこそ成果が上がったと言えるのではないか。上記の指標だけでは妥当性を判断できない。
	ウ)その他	※ 区の取組の成功例をインターネットで公開し、区民の反響を掴み判断材料にすることも考えるべき。
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)評価結果との関連性	○	
イ)内容の具体性	○	
ウ)その他	※	人権尊重、男女共同参画に関する国、都、民間団体の役割を踏まえ、区に期待されている役割を明確にして取組を実施すべき。
(6)その他		
その他		人権や男女共同参画については、年齢層によって、また区内でも地域によって、意識・取組に差がある。区として問題のある層や地域を限って、ピンポイントで実施することによって、少ない経費で効果を上げるようにすべき。

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		151 便利で効率的な窓口サービスを行う		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		自動交付機の年間時間外延べ稼働時間	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設置台数が増加すれば、稼働時間が増えることから、成果指標としては適切ではない。</li> <li>■ 窓口サービスの指標としては、部分的過ぎ、不適切。</li> </ul>
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	△	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	近隣区と比較をする(ベンチマーク)などによって、区民が見て妥当と判断できるような目標値を設定すべき。	
	指標②		出張所職員1人当たりの年間届出事務処理件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 届出事務だけでなく、住民表の写しや印鑑登録事務なども含めた窓口事務全般を対象にすべき。</li> <li>■ サービスに関する指標であるので、事務処理件数よりも、手続きの待ち時間を指標とした方が適切。</li> </ul>	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	近隣区と比較をする(ベンチマーク)などによって、区民が見て妥当と判断できるような目標値を設定すべき。		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	サービスについて評価するのであるから、行政サービス満足度(顧客満足度)を見る指標を入れるべき。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	○	コメント	

【評価】 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	○	20年度について述べているが、あくまでも18年度に関して判断理由を示すこと。 設定された指標が適切でないので、窓口サービス全般について判断できない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	△	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○	②で19年度の見込みを判断理由としてはならない。 自動交付機増設の費用対効果を検証することが望まれる。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	※	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	ただし、人件費を抑えながらサービス時間の拡大を図らなければならないことについて言及すること。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	ただし、ITをはじめ事務処理機器の開発が進んでいることについて言及すること。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	△	サービス提供時間は拡大したが、効率性は達成できたとはいえない。 見込みを判断理由として述べるべきではない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	/	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○	自動交付機に関する指標にするのであれば、機械の利用率向上を図ることが重要な改革改善案になる。	
イ)内容の具体性	○		
ウ)その他	※		
(6)その他			
その他		窓口サービスの評価に当たっては、1件当たりのコストと顧客満足度の2つの面から評価すべき。	

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		412 未来を築くみどりをつくる		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適切か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		公園の整備面積(累計)	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>「区民1人当たりの都市公園面積」(事務事業評価表No.19の指標)を採用すべき。</li> <li>累計値は、毎年度、成果をみるのには適していない。</li> </ul>
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	△	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	○		
	指標②		公共施設における屋上緑化箇所数	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設だけを評価対象とするのは不十分。民間の施設屋上も評価対象とすべき。(事務事業No.13では「区内民間建設物の屋上」が対象となっている。)</li> </ul>	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	全体的な動向を把握する上で、箇所数は適切ではない。		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>累計値は、毎年度達成状況を見るためには、採用すべきではない。</li> <li>住宅・民間施設を含め、面積を指標にすべき。</li> </ul>	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>指標②は未達成。</li> <li>例えば、屋上緑化整備面積(事務事業No.26)で見れば、十分達成したことになる。設定された指標に問題がある例で、区の取組・努力を見えなくしている。</li> </ul>	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	△ 指標②が未達成。
	イ)判断理由の妥当性	△ 箇所数だけからは屋上緑化が「計画通りに進んでいる」とまではいえない。
	ウ)その他	※ 現行の指標に問題があるためで、実質的には、「A」と考える。
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○
	イ)判断理由の妥当性	○
	ウ)その他	/
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ただし、みどり30推進計画の策定による効果を述べるべきではない。
	外部要因 記載内容の妥当性	○
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○
	イ)判断理由の妥当性	○
	ウ)その他	/
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)評価結果との関連性	○	
イ)内容の具体性	○	
ウ)その他	/	
(6)その他		
その他		公園緑地に関する区の実施については、区民から高い評価を得ていると見られる。区の実施が施策評価の場においても反映されるよう、指標の選定や目標値の設定がなされるべきである。

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価表検討表

第1専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		421 足元からの行動を広げる		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	電気使用に伴う区民1人当たり年間二酸化炭素排出量		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	電気の使用量を減らすことによってCO2を減らすことには限界がある。個人の家庭でも断熱材の使用、太陽光発電、燃費のよい車の使用等を促進するような指標の方が良い。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他	／		
	オ) 総合	△		
	目標の妥当性	△	19年度から21年度の間について、「減少」とするのではなく、国や都道府県レベルから落とし込むか、京都議定書から想定される数値を設定すべき。	
	指標②	エコライフチェック参加者数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	ただし、児童だけでなく、一般区民も対象にして実施し、それを指標にすれば、代表性は高まる。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	／		
オ) 総合	○			
目標の妥当性	○			
指標③	ホームページ「ねりまのかんきょう」の年間アクセス人数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
イ) わかりやすさ	○			
ウ) 普遍性	○			
エ) その他	／			
オ) 総合	○			
目標の妥当性	△	18年度の時点で22年度の目標を上回っているため、19年度以降の目標値については上方修正する必要がある。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		○	ただし、「エコライフチェック参加者数」については、事務事業の評価の場合は良いが、施策の評価指標としては代表性に問題がある。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		△	指標①については、達成しているとはいえない。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
	ウ)その他	/	
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	△	②で、「最小の事業費で事業成果を上げることができた」と記しているが、根拠が不明で、検証が必要。
	ウ)その他	/	
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	○	ただし、現在、区が取り組んでいることを積極的に説明すべき。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	△	区民に直接、広く働きかけることができるのは区のみ。区のみの方策で削減できるものもあると考える。
	ウ)その他	/	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
ア)評価結果との関連性		○	
イ)内容の具体性		○	
ウ)その他		※	①で、「事業量の増大が見込まれるため、一部委託、臨時職員の利用等を検討する」と記しているが、まず、職員の重点的再配置について検討すべきではないか。
(6)その他			



その他	
-----	--

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該当

施策評価表検討表

第1専門部会協議結果(5/1現在)

施策名		431 ごみの発生を抑制する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		区民1人が1日当たりに排出するごみの量	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	21年度までの目標については、「減少」とせず、具体的な数値を掲げ、その間の達成度を評価できるようにすべき。	
	指標②		区のリサイクル事業への協力率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	ただし、指標は、「リサイクル事業への協力率」となっているが、数値は「リサイクル率」であり、代表性及び普遍性に問題が残る。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	△	目標値は、「増加」とせず、具体的な数値を掲げ、毎年度の達成度を評価できるようにすべき。		
指標③		小学校4年生における環境学習受講率		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	△	事業の実施状況を確認する指標であり、施策(ごみの発生量を抑制する)にどのように、どの程度寄与しているかが分らない。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	16年度に既に達成していること、また69校以上にはなり得ない数値を目標値とすべきではない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		△	指標③については問題がある。また、指標②については、数値は「リサイクル率」。協力率は、「区民の貢献度」をみるもので、性格が異なる。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○		

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成 果	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	△	②の判断理由は、言い逃れといわれても仕方がない。
	ウ)その他	/	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
	ウ)その他	※	18年度に全世帯に「ごみ減量・リサイクルハンドブック」を配布したことが大幅な事業費の増加につながっている(事務事業No.1)。配布の効果については検証が必要。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	
	外部要因 記載内容の妥当性	△	①の要因に加えて、民間レベルのリサイクルやリユース事業に対する区民の参加が定着しつつあることも大きな原因と考えられる。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
	ウ)その他	/	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア)評価結果との関連性	○	
	イ)内容の具体性	○	
	ウ)その他	※	・⑥の処分自転車については、資源化ではなく、ODAでの援助も視野にリユースを考えるべき。 ・リサイクルセンターの展示については魅力的な商品になるよう工夫すること。
(6)その他			
その他			

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該

施策評価表検討表

第1専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		441 区民・事業者とともにまちづくりを進める		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	まちづくりセンターの利用件数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	20年度以降の目標値については高めに設定すべき。	
	指標②	練馬区まちづくり条例における開発調整の手続きが順調に進められた件数の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	定義で、「紛争条例の紛争調整(中略)に持ち込まれなかった件数」とされているが、「解決した件数」とすべき。紛争処理手続きがあることから、この手続きを得て解決されたことは評価されること(指標③と同じ考え方にする)。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	△	18年時点で目標値を上回る成果を得ているので、目標値を上方修正する必要がある。		
指標③	中高層建築物等の建築において紛争がおきた件数のうち解決が図られた件数の割合			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	○			
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		△	「区民・事業者とともにまちづくりを進める」ことが施策であるが、まちづくりを区と区民・業者がともに進めていることによる効果が分る指標が設定されていない。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○		

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成 果	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
	ウ)その他	※	(②で、「目標を概ね達成している」としているが、データでは、達成している。)
成果と 経費の 比較	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	△	事務事業評価表からみると、18年度の事業費は抑制されていると言えない。人件費の抑制に関しても、例えば、事務事業No.3の18年度は何らかの事情によるものと見られるなど、分析が不十分。
	ウ)その他	/	
要因 分析	内部 要因 記載内容の 妥当性	○	
	外部 要因 記載内容の 妥当性	○	
総合 評価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
	ウ)その他	/	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア)評価結果との関連性	○	
	イ)内容の具体性	△	区民への情報提供は、建築調整課ホームページの充実である程度目的を達することができるが、事業者への働きかけは不可欠。
	ウ)その他	※	区民や事業者に対するアンケートを定期的に行い、ニーズを把握して、適切かつ効率的な情報提供を行うこと。
(6)その他			

その他	
-----	--

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当

施策名		454 利用しやすい都市をつくる		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として 適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	福祉のまちづくり適合掲示板の発行件数(累計)		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	累計発行数を指標としており、単年度の成果を見るのには不適切。また、毎年20件ずつというのは少ない。	
	指標②	バリアフリー化された区立施設数		
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	○		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	△	「増加」とするのではなく、目標値は具体的な数値で示すべき。累計値ではなく、パーセントにするなどの工夫が要る。		
指標③	鉄道駅バリアフリー事業の補助等によるバリアフリー化が完了した駅数(累計)			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	△	バリアフリー化されていない駅を100%とし、バリアフリー化を計画する駅の率を目標値にするなど、全体としてバリアフリー化がどの程度進展しているかが分るようにすべき。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価		
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		△	指標①は未達成。しかも指標②と③については判断が困難。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし



(3)経費・財源について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア)必要事項は記載されているか				
イ)記載内容の正確性				
(4)評価について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
成果	ア)評価区分の妥当性	○		
	イ)判断理由の妥当性	○		
	ウ)その他	/		
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△	適切であると判断し得る資料・説明がない。	
	イ)判断理由の妥当性	△		「成果」でBとしながら、「少人数の職員で成果が出ている」と判断する理由が不明。
	ウ)その他	/		
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	この施策は区民や事業者の協力を得ることが必要。そのために区は、どのようなことをしたかを記述すべき。	
	外部要因 記載内容の妥当性	○		
総合評価	ア)評価区分の妥当性	△	数値から見る限りA(良好に進んでいる)とは言えない。	
	イ)判断理由の妥当性	△		バリアフリー化について、「事業成果は、認められる」とするのであれば、近隣区との比較を行うなどし、説明すべき。
	ウ)その他	/		
(5)改革・改善案について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア)評価結果との関連性	○	区民や事業者の協力を得るための具体的な取組を行うべき。「要綱」を「条例」化したからといって施策が進展するわけではない。		
イ)内容の具体性	△			
ウ)その他	/			
(6)その他				
その他				

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		461 公共交通を充実する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として 適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		区が関与し運行しているバスの1便当たりの乗降客数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	ただし、目標値については、小数点以下も表し、22年度の目標値が10年後の目標の21人に対して低くないことが分るようにすべき。(乗降客数ではなく乗客数ではないか。)
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	○	ただし、目標値については、小数点以下も表し、22年度の目標値が10年後の目標の21人に対して低くないことが分るようにすべき。	
	指標②		区全体のボトルネック踏み切り解消の達成度(累計)	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	○		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	△	毎年度の事業計画が各年度の目標のはず。18年度から21年度についても数値を入れるべき。		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	大江戸線の延伸は区の都市計画の大きな柱であるので、指標を設定して達成状況を見るべき。例えば、「大江戸線延伸計画の進捗度」。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	○	指標①は達成している。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	○	事務事業No.3から着実に進捗しているとは言えない。また、この施策には性格の異なる事務事業が含まれており、個別に判断しなければならない。
	イ)判断理由の妥当性	△	
	ウ)その他	／	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△	判断できない。
	イ)判断理由の妥当性	△	具体的に説明すべき。
	ウ)その他	／	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	この施策は区が主体ではない。区民、事業者との協働について具体的な取組を記述すべき。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
	ウ)その他	／	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○	区が実施していることを踏まえ、改善すべきことを具体的に記述すべき。	
イ)内容の具体性	△		
ウ)その他	／		
(6)その他			
その他			

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		472 良質な住まいづくりを支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として 適当か	○			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		耐震診断件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	新築と取壊しを除いた耐震診断件数であるとしても120件は少なすぎる。	
	指標②		未来塾(マンションセミナー)無料相談会開催数	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	開催数ではなく、参加者数を指標とすべき。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	22年度まで同じ16回というは少い。目標値は上げていくべき。		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	現在の指標を見直し、老朽化した木造住宅やマンションの修繕・建て替えに関する指標や、安心して生活できる住まいの割合を示す指標にすべき。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	△	指標①が大幅に未達成であるため。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	△ 指標①は目標を達していない。
	イ)判断理由の妥当性	○ ただし、19年度に実施したものは、記述から除くべき。
	ウ)その他	/
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△ 提出された資料からだけでは判断できない。
	イ)判断理由の妥当性	△ 提出された資料からだけでは判断できない。
	ウ)その他	/
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ただし、19年度に実施したものは、記述から除くべき。
	外部要因 記載内容の妥当性	○
総合評価	ア)評価区分の妥当性	△ Aと判断できるだけの根拠がない。
	イ)判断理由の妥当性	△ 事務事業No.1、No.2、No.3の活動指標が減少しており、施策が「良好に進んでいる」と判断することはできない。
	ウ)その他	/
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)評価結果との関連性	○	
イ)内容の具体性	○	
ウ)その他	/	
(6)その他		
その他		住宅の絶対的な供給不足は解消しており、協力団体などと協力して、情報提供や相談窓口の強化など、事務事業の見直しを行い施策体系の再編を検討すべきではないか。

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし